

(5) 英語

ア 個々の問題の概要及びその通過率

—評価の観点—
 表 現：外国語表現の能力
 理 解：外国語理解の能力
 言・文：言語や文化についての知識・理解

(◇：「活用」に関する問題)

学習指導要領の内容	問題番号	出題のねらい	活用	評価の観点	A設定通過率 (%)	B通過率 (%)	AとBの比較	
ア 聞くこと (ウ)	1	(1) Whereを用いた疑問文に対して正しく応答することができる。		理 解	65	95	↑	
		(2) Whenを用いた疑問文に対して正しく応答することができる。		理 解	65	43	↓	
		(3) Howを用いた疑問文に対して正しく応答することができる。		理 解	60	40	↓	
ア 聞くこと (ア) (イ)	2	(1) 絵を参考に人の行為や日付を聞き分けることができる。	◇	理 解	50	34	↓	
		(2) 絵を参考に家族の関係を聞き分けることができる。	◇	理 解	70	95	↑	
		(3) 絵を参考に人の行為を聞き分けることができる。		理 解	60	92	↑	
ア 聞くこと (オ)	3	まとまりのある英文を聞いて概要を理解し、適切でない文を指摘することができる。	◇	理 解	55	40	↓	
エ 書くこと (イ)	4	(1) 適切なbe動詞を書くことができる。		言・文	60	53	↓	
		(2) 三人称・単数・現在形の文を書くことができる。		言・文	50	38	↓	
		(3) 一般動詞の過去形の否定文を書くことができる。		言・文	50	38	↓	
		(4) 三人称・単数・現在形の疑問文を書くことができる。		言・文	50	50	—	
		(5) 現在進行形の文を書くことができる。		言・文	50	68	↑	
ウ 読むこと (イ) (ウ)	5	(1) まとまりのある英文を読んで、英文に続ける適切な英文を指摘することができる。	◇	理 解	60	44	↓	
		(2)	① まとまりのある英文を読んで、要約文に合う英語を指摘することができる。	◇	理 解	50	54	—
			② まとまりのある英文を読んで、要約文に合う番号を指摘することができる。	◇	理 解	50	62	↑
			③ まとまりのある英文を読んで、要約文に合う番号を指摘することができる。	◇	理 解	50	74	↑
			④ まとまりのある英文を読んで、要約文に合う番号を指摘することができる。	◇	理 解	50	67	↑
ウ 読むこと (イ) (ウ)	6	(1) 対話文から必要な情報を読み取り、適切でないものを指摘することができる。	◇	理 解	60	58	—	
		(2)	① 【お知らせ】と対話文から必要な情報を読み取ることができる。		理 解	60	52	↓
			② 【お知らせ】と対話文から必要な情報を読み取ることができる。	◇	理 解	50	21	↓
			③ 【お知らせ】と対話文から必要な情報を読み取ることができる。		理 解	60	66	↑
エ 書くこと (ア) (イ)	7	(1) 示された英語を用いて、対話に合うWhat＋名詞の語順の疑問文を書くことができる。		表 現	60	54	↓	
		(2) 示された英語を用いて、対話に合うWhatを用いた過去進行形の疑問文を書くことができる。		表 現	60	85	↑	
		(3) 示された英語を用いて、対話に合う命令文を書くことができる。		表 現	60	66	↑	
ウ 読むこと (イ) (ウ) (エ)	8	(1) ① 対話に合う英文を指摘することができる。	◇	理 解	60	60	—	
		② 対話に合う英文を指摘することができる。	◇	理 解	60	56	—	
		(2) 文と文の順序や相互の関連を考え、まとまりのある英文を構成することができる。	◇	理 解	50	28	↓	
エ 書くこと (ア) (イ)	9	(1) 対話に合うWhat timeを用いた疑問文を書くことができる。	◇	表 現	55	32	↓	
		(2) 対話に合う応答文を書くことができる。	◇	表 現	55	76	↑	
		(3) 対話に合うWhoseを用いた疑問文を書くことができる。	◇	表 現	55	44	↓	
エ 書くこと (ア) (イ) (エ)	10	条件に従って、まとまりのある英文を考え、書くことができる。	◇	表 現	30	26	—	

A設定通過率とB設定通過率を比較する際は、下記により判断する。
 +5%より上の場合：「↑」 ±5%の範囲内：「—」 -5%より下の場合：「↓」

評価の観点	表 現	理 解	言・文
A設定通過率	54	57	52
B通過率	55	57	50

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問題の内容	設定 通過率	東 青 管 内			西 北 管 内					
				青森市	東郡		五所川原市	つがる市	西・北郡		
1	(1)	Whereを用いた疑問文への応答	65	94	94	96	93	94	92	94	
	(2)	Whenを用いた疑問文への応答	65	43	42	47	42	41	41	45	
	(3)	Howを用いた疑問文への応答	60	42	41	52	42	44	38	43	
2	(1)	人の行為や日付の聞き分け	50	36	36	35	29	28	24	34	
	(2)	家族の関係の聞き分け	70	95	95	96	95	96	92	95	
	(3)	人の行為の聞き分け	60	92	92	95	92	91	93	92	
3		まとまりのある英文の概要理解	55	45	45	47	39	38	41	39	
4	(1)	適切なbe動詞の記入	60	65	65	65	58	62	58	54	
	(2)	三人称・単数・現在形の一般動詞の記入	50	42	41	53	42	40	51	40	
	(3)	一般動詞・過去形の否定文の語句記入	50	42	41	50	42	38	54	38	
	(4)	三人称・単数・現在形の疑問文の語句記入	50	57	56	68	55	53	63	51	
	(5)	現在進行形の文の適切な一般動詞の記入	50	70	70	65	70	66	73	72	
5	(1)	まとまりのある英文の詳細理解	60	44	44	47	46	43	52	45	
	(2)	①	まとまりのある英文の要点理解	50	59	59	63	51	49	48	54
		②	まとまりのある英文の要点理解	50	65	65	65	61	56	67	62
		③	まとまりのある英文の要点理解	50	76	76	72	73	71	73	75
		④	まとまりのある英文の要点理解	50	70	70	70	66	63	72	66
6	(1)	対話文を読んでの詳細（内容）把握	60	62	62	60	56	55	54	58	
	(2)	①	対話文を読んでの詳細（内容）把握	60	53	53	51	53	54	57	51
		②	対話文を読んでの詳細（内容）把握	50	22	23	16	19	21	17	17
		③	対話文を読んでの詳細（内容）把握	60	70	70	73	66	61	72	67
7	(1)	対話に合うWhat＋名詞の語順の文の完成	60	56	54	84	66	59	73	68	
	(2)	対話に合うWhatを用いた過去進行形の文の完成	60	89	89	89	86	83	90	85	
	(3)	対話に合う命令文の完成	60	65	65	69	67	68	67	66	
8	(1)	①	対話に合う適切な英文の選択	60	61	61	67	60	58	57	64
		②	対話に合う適切な英文の選択	60	58	58	61	55	51	60	55
	(2)	文と文の順序や相互の関連の理解	50	32	32	30	26	23	28	29	
9	(1)	対話に合うWhat timeを用いた疑問文の英作文	55	36	36	42	35	25	41	42	
	(2)	Whereを用いた疑問文に対する応答文の英作文	55	79	79	84	80	80	74	83	
	(3)	対話に合う Whose を用いた疑問文の英作文	55	48	48	45	46	42	52	46	
10		条件に合うまとまりのある英作文	30	41	41	46	22	31	20	13	
教 科 全 体			55	58	58	61	56	54	58	56	

(単位：%)

	中 南 管 内				上 北 管 内				下 北 管 内			三 八 管 内			県全体
	弘前市	黒石市	平川市	中・南郡	十和田市	三沢市	上北郡		むつ市	下北郡		八戸市	三戸郡		
94	93	92	98	95	96	97	97	95	95	96	91	96	97	95	95
39	40	32	41	40	46	46	58	40	45	45	47	45	46	39	43
40	40	36	47	41	40	37	44	40	37	34	49	37	36	40	40
31	35	22	25	25	37	36	49	33	34	34	36	35	35	35	34
94	93	93	96	96	96	94	97	97	95	96	94	95	95	95	95
90	90	88	93	91	93	94	95	93	93	93	93	91	91	91	92
35	36	25	40	34	45	46	48	42	40	40	38	38	38	37	40
59	57	58	58	72	60	60	63	58	41	43	33	33	34	33	53
29	29	25	27	36	45	44	54	42	38	37	43	36	37	32	38
28	27	25	39	26	40	41	53	33	37	33	55	38	40	30	38
45	44	52	49	35	53	59	62	45	49	50	47	44	45	38	50
61	64	47	56	68	71	73	75	68	62	62	62	71	73	62	68
44	43	43	51	40	42	42	47	41	44	45	43	44	44	45	44
56	56	63	52	56	55	57	61	51	53	53	53	50	52	42	54
61	62	61	65	53	63	67	69	59	58	60	48	60	60	57	62
73	73	68	79	70	75	76	82	72	72	73	66	72	72	70	74
65	66	53	69	60	68	72	71	65	63	64	58	65	65	61	67
56	56	53	58	55	56	58	61	52	50	51	50	62	64	57	58
51	51	53	48	50	54	55	64	50	51	51	51	51	51	51	52
18	19	20	18	17	22	27	25	19	25	26	21	21	21	19	21
65	65	60	67	67	65	67	71	60	58	57	61	65	67	58	66
49	43	52	73	50	64	65	72	60	51	47	66	45	40	67	54
83	83	80	85	87	82	85	89	77	83	82	83	83	84	82	85
62	62	53	64	68	66	67	76	61	68	67	76	70	70	70	66
57	57	53	54	59	62	57	70	61	57	56	58	62	63	59	60
51	53	42	48	55	57	58	65	52	55	56	53	59	60	54	56
24	24	19	29	24	29	29	41	24	28	29	27	26	26	24	28
25	28	20	24	20	32	32	45	27	33	30	45	31	33	23	32
78	76	80	82	79	80	81	85	77	64	64	62	70	71	67	76
34	31	27	43	42	47	49	56	42	41	41	38	45	46	43	44
18	20	18	16	15	26	27	24	26	28	23	49	19	20	17	26
52	52	48	55	52	57	58	64	54	53	53	55	54	54	51	55

※通過率(%)は、「総正答数/総解答数」で算出した数値の少数第1位を四捨五入した整数値で表しています。

ウ 個々の問題の主な誤答例とその原因

問題番号	通過率(%)	主な誤答例(無答を含む) (カッコ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%であり、調査全体の誤答の割合とは異なる)
② (1)	34	ア (12.5)、イ (47.5)、ウ (0.5)
④ (2)	38	play (25.0)、is (11.0)、playes (6.0)、played (5.5)、playing (2.0)
④ (3)	38	was (37.5)、am (6.0)、went (6.0)、do (5.0)、didn't (2.0)、don't (2.0)
⑥ (2)②	21	ア (64.0)、イ (9.0)、ウ (4.5)
⑧ (2)	28	オイエウカ (9.0)、カオイエウ (4.0)、オйкаエウ (2.5)
⑨ (1)	32	What time do you (18.0)、無答 (9.0)、What time is it (6.0)、What time are you (2.5)、What time were you (2.5)
⑩	26	20語以上で書いているが、間違いがあるもの (56.0)、語数が20語に満たなかったもの (9.0)、無答 (9.0)

- ②(1)では、誤答の原因として、約6割の生徒がアかイを選んでいることから、聞き取った日付と絵にあるカレンダーの日付とが一致したものを単純に選び、英文後半の友達と昨日何をしたかの部分の意味や、会話がなされた日付とカレンダーの日付との関連性を理解できなかったことが考えられる。
- ④(2)では、誤答の原因として、playと書く例が多いことから、3人称・単数・現在形の定着が十分ではないことや、主語のmy sisterを3人称・単数として捉えられなかったことなどが考えられる。
- ④(3)では、wasの誤答が多く、be動詞以外の動詞を含む過去形の文で、notを使って否定文を作る場合にはdidを用いることの理解が不十分であることが考えられる。
- ⑥(2)②では、誤答の原因として、約6割の生徒がアを選んでいることから、一つの授業に何人の生徒がいるのかは読み取れたものの、その前の英文「彼女は二つ授業を受けもっている」を理解して、それぞれの授業にいる生徒の合計人数を答えることにまで考えが至らなかったと考えられる。
- ⑧(2)では、誤答の原因として、文章中の時刻や代名詞を手がかりとして文脈を捉えられていないことに加え、文と文の意味的なつながりを考えたり、文章全体を通して読み直したときに内容の一貫性が保たれているかを判断したりすることができないことが考えられる。
- ⑨(1)では、誤答の原因として、What time do youと書く例が多いことから、I got up at seven.を過去の事として捉えられなかったり、be動詞以外の動詞を含む過去形の文で、疑問文を作る場合にdidを用いることの理解が不十分であることが考えられる。
- ⑩では、誤答の原因として、I am went to go sopping with my friend.やI bought book and pen.などのような複数の間違いを含む英文が多く見られることから、文構造や時制、語彙及び冠詞に関する理解が不十分であることが考えられる。

エ 今後の指導について

(1) 読むこと

○課題の見られた問題 8(2)

○出題のねらい

文と文の順序や相互の関連を考え、まとまりのある英文を構成することができるかを判断する問題である。出題の意図は平成29年度に今年度と同じ形式の問題を出題した際の分析において、文章中の代名詞の使い方に関する知識・理解や、時系列を意識して文章を読み進めることが十分でないという課題が見られたため、再度同じ形式の問題を出題することで、指導の改善が図られ、指導の効果が表れているかを確かめることとした。

○分析結果と課題

分析の結果、文章の文脈を正確に捉えられていない生徒が約7割であった。原因として、文章中の時刻や代名詞を手がかりとして文脈を捉えていないことに加え、文と文の意味的なつながりを考えたり、文章全体を通して読み直したときに内容の一貫性が保たれているかを判断したりすることができないことが考えられる。課題として、まとまった量の英文を読んだり、文章の構造を意識して英文を読んだりする経験が不足していることが考えられる。

○学習指導に当たって

今後の指導に当たっては、各校の「CAN-DOリスト」の学習到達目標を生徒と確実に共有しながら、教科書を活用して、日常的又は社会的な話題について必要な情報を読み取ったり、短い文章の概要や要点を捉えたりできるようにすることが大切である。

そのために、語と語のつながりを意識して読み取らせたり、大意を理解するskimmingや特定の情報を求めて英文を読むscanningに取り組みせたり、読む分量を増やし、パラグラフという概念を理解させた上で、概要や要点を捉えさせたりする指導を行うことが大切である。

また、小学校の外国語科では、「読むこと」の言語活動(ウ)において「日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどから、自分が必要とする情報を得る活動」に取り組むことと示されている。したがって、生徒が小学生の時にどのような教材を使って当該活動に取り組み、どの程度の情報を得ることができるようになっていくかを把握して指導に当たる必要がある。

指導例

教科書を活用したまとまりのある文章の全体像を理解させるリーディングの指導

【指導の流れ】

1 単元の目標を確認させ、本単元の学習内容や活動に見通しをもたせる。

使用教材 TOTAL ENGLISH 2 Lesson 6 The 3Rs in Germany and Japan

この単元では、東京オリンピックの話題についての文章の要点を捉えることが目標です。私たちの学校の「CAN-DOリスト」では、「読むこと」の2-Uに当たります。



ポイント

- ・単元の目標を示すことで、毎時間の学習や言語活動に対する目的をもたせる。
- ・「CAN-DOリスト」に関しては、単元を通して必要に応じて振り返らせ、できるようになったことや、まだできていないこと等を確認させる。

2 英語の文章を正しい順番に並べ替えさせる。

学習活動 初見でLesson 6 (6Aと6B) のA～Eに分割された文章を並べ替える。

A : I'm Elena Kessler. I came to Japan from Germany last month. Living in Japan is……

D : Look at this picture. This is a toothbrush. You don't have to use new plastic……

B : The 3Rs are good for the environment. I'll show you some examples in Germany.

C : The other day, I learned the Japanese word *mottainai*. I think it's a great word.....

E : Next, this is a box for used clothes and shoes. Charities give or sell them to people.....



What comes second?

How about third ?

C comes second.

I chose B for third.



ポイント

- ・習熟度に応じて、日常の中の3 R (reducing, reusing, recycling) について触れ、キーワードや写真を示しながら、日本語や英語で6 Aと6 Bの内容を確認した後で並べ替えをさせる。また、最初 (A) と最後 (E) のパラグラフだけはあらかじめ与えたり、最初か最後のどちらかのパラグラフだけあらかじめ与えたりすることも考えられる。
- ・答えを確認するときは、代名詞や文と文の論理的関係を示すことば (for example, then, after thatなど) を意識させ、その順番にした理由を英語や日本語で説明させて、全体で確認する。
- ・まずは個人で並べ替えを行わせ、次はペアで相談させながら確認させる。発表や発言に自信をもたせるために3~4人のグループで話し合わせてもよい。
- ・評価に関しては、正しく並べ替えているだけでなく、並べ替えた理由を適切に述べることでできれば、Aとすることが考えられる。(並べ替えの理由は日本語で説明してもよい)

3 skimming やscanningを取り入れて教科書の内容を把握させる。

学習活動① skimmingで全体像を捉える。



Which picture is for recycling?

The picture of soccer shirts is for recycling.

That's right. The soccer shirts are used for recycling and were made from plastic bottles.



学習活動② scanningで必要な情報を捉える。(習熟度によるが1問につき時間制限を設ける)



What do they reuse?

Yes. They reuse clothes and shoes.

Clothes and shoes.



ポイント

- ・skimmingやscanningでは、分からない単語があっても止まらずに読みきることを伝える。文章のどこに何が書いてあるのかを口頭や記述形式で英問英答を行い、内容確認をさせる。
- ・生徒が日本語で答えたときは、英語に言い換えて返答する。
- ・未習事項 (It is made from plastic bottles.) であっても今後の指導のために積極的に表現を使用する。
- ・学級の習熟度に応じて、日本語や英語で答えさせ、必要に応じてALTと内容把握を行わせる。

(2) 書くこと

○課題の見られた問題 10

○出題のねらい

条件に従って、まとまりのある英文を考え、書くことができるかを判断する問題である。平成29年度は15語以上の英文を書かせていたが、今年度から20語以上の英文を書かせることとし、文章構成をより意識して英文が書くことができるかを問うこととした。

○分析結果と課題

分析の結果、20語以上の英文を書いた生徒は約8割いたが、全て正しい英文を書いた生徒は3割に満たなかった。原因として、文構造、時制、語彙及び冠詞についての理解・習熟が不十分であることが考えられる。課題として、まとまった英文を書いたり、書いた英文を見直して、間違いの原因を知る機会が不足していることが考えられる。

○学習指導に当たって

今後の指導に当たっては、各校の「CAN-DOリスト」の学習到達目標を生徒と確実に共有しながら、関心のある事柄、日常的又は社会的な話題について、外国語のコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにすることが大切である。そして、間違いを恐れずに書かせる指導を積み重ねていくことが今後必要である。

そのために、生徒が正しく言えるようになったところで書く活動を繰り返したり、学習した文法事項等を使って自分の考えを書かせたりするなど、自己表現を通してその文法事項の定着を図ることができるよう指導することが必要である。生徒一人一人がライティングノートを持ち、意味が分かり、話せるようになった英文を書きためる活動も大切である。

指導例

教科書を活用したまとまりのある文章を書かせるための指導

【指導の流れ】

1 単元の目標を確認させ、本単元の学習内容や活動に見通しをもたせる。

使用教材 TOTAL ENGLISH 2 Lesson 8 Manga, Anime and Movies



この単元では、自分の好きなマンガやアニメ、映画について、英語で書くことができるようになることが目標です。私たちの学校の「CAN-DOリスト」では、「書くこと」の2-イに当たります。単元の終わりには、クラスのおすすめマンガ・アニメ・映画レポートを作って、ALTに紹介しましょう。

ポイント

単元の目標を示したり、ALTに英語で作成したレポートを紹介する場面を見せたりすることで、毎時間の学習や言語活動に対する目的と必然性をもたせる。また、他者へ伝えるという相手意識をもたせる。

2 言語活動を通して、教科書本文の内容を把握させる。

学習活動① Small Talkを行う。

ポイント

本時の内容に関するSmall Talkを行うことにより、書きたい内容について考えさせるとともに、本時の内容に興味をもたせる。

学習活動② 新出語彙を確認し、発音練習等をする。

学習活動③ 教科書本文の内容を把握する。

ポイント

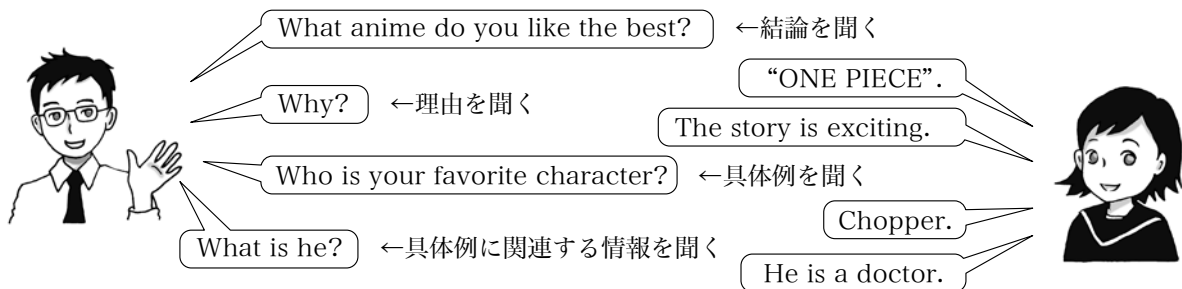
書く活動の際に活用させたい表現については、内容把握の際の生徒とのやり取りや教師の説明を通して、特に意識して聞かせたり話したりする。

3 教科書の内容から、まとまりのある文章を書かせる活動につなげる。

学習活動① 表現させたいことを踏まえ、やり取りをする。

ポイント

最後に書かせる英文【終末の筆記（例）】を、教師がイメージしてやり取り（質問）を行う。また、問いかけに対する答えを生徒が順番に書けばまとまりのある文章になるように、質問の順序に配慮する。



【終末の筆記（例）】

I'll tell you about my favorite anime. I like “ONE PIECE” the best because the story is exciting. My favorite character is Chopper. He is a doctor.

学習活動② やり取りを基に、英文を書く。

ポイント

まずは一語文又は二語文でも書かせ、一定程度の量の英文を書くことができるという喜びを味わわせる。ただし、文章全体の構成は意識させる。

【筆記例】

“ONE PIECE”. The story is exciting. Chopper. A doctor.

結論 理由 具体例 具体例に関連する情報

学習活動③ グループ又はペアで、英文の見直しをする。

ポイント

「語順」と「適切な主語と動詞」の2点から見直しをさせる。書きたいけれども書けない、という「困り感」を取り上げ、全体で共有する。教師が教え込むのではなく、生徒の思いや伝えたいことを取り入れて指導を行う。

学習活動④ 正確な英文を書く。

ポイント

書き始めや終わりは、定型フレーズとして事前に提示する。

学習活動⑤ グループ又はペアで交換して読み合い、感想を伝え合う。

①【終末の筆記（例）】を意識したやり取り→②まずは書かせる→③指導→④再度書かせるの指導過程を利用すれば、全ての単元に組み込むことが可能である。また、この指導過程は、「筆記」を「会話」に、「書かせる」を「話させる」に置き換えれば、Small Talkの指導過程に応用することも可能である。